
柏市都市農業振興計画 概要版

2026(令和8)年度～2030(令和12)年度

2026(令和8)年3月 策定



計画の概要

柏市都市農業振興計画とは

「柏市都市農業振興計画」は、本市の都市農業が目指すべき将来像と、その実現に向けた施策の方向性や推進体制を明確にすることにより、農業の価値と役割を次世代へと継承するために策定するものです。

本計画は柏市第六次総合計画を上位計画とし、本市の農業振興を計画的に進めていくための5か年計画として位置づけるものとし、国・県が策定した農業振興に関する計画や本市の関連する部門計画とも連携して推進するものとします。



計画の期間

本計画は2026(令和8)年度から2030(令和12)年度までの5年間を計画期間とします。

本計画は定期的に進捗を確認するとともに、計画終了年度の令和12年度に達成状況を評価し、次期計画に向けて見直しを行うものとします。

2016(平成28)～2020(令和2)年度

2021(令和3)～2025(令和7)年度

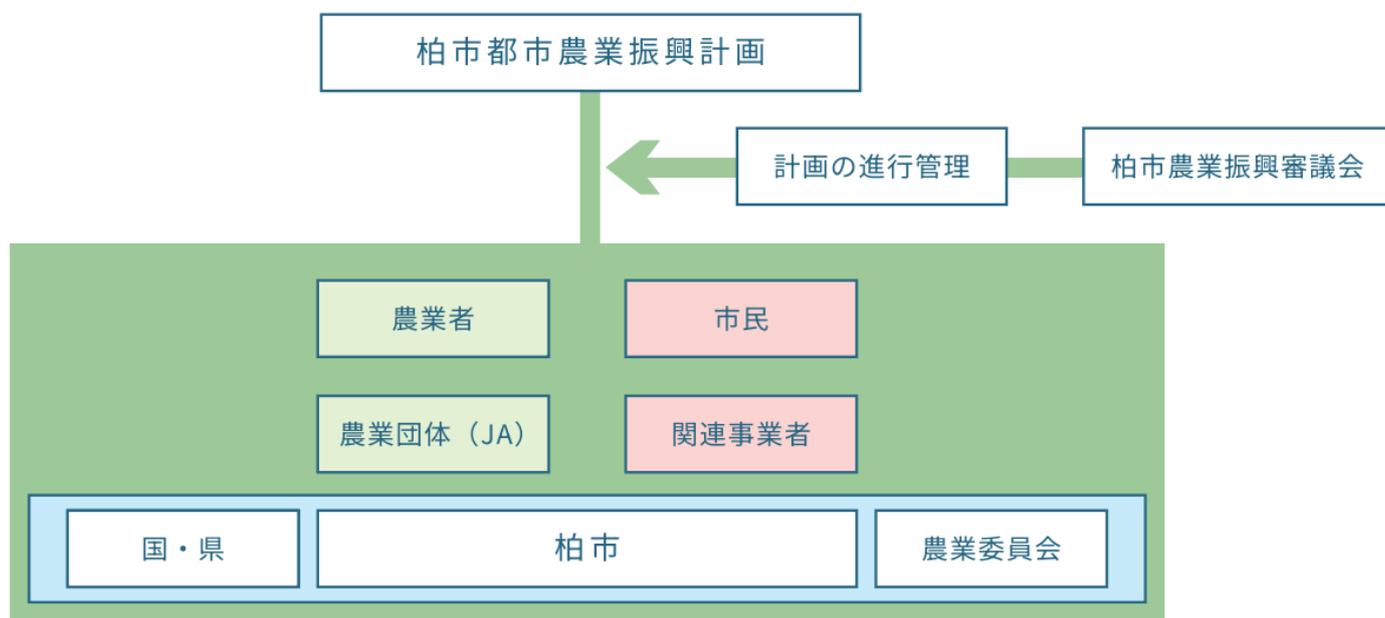
2026(令和8)～2030(令和12)年度



計画推進体制

本計画の策定にあたって、令和6年度に農業者および市民を対象としたアンケート調査や関係者へのヒアリング、農林業センサス等の基礎データの整理を行い、基礎調査報告書を作成しました。

本計画は基礎調査報告書に基づいた分析、令和6、令和7年度における柏市農業振興審議会への諮問、令和7年度のパブリックコメントによる市民意見の反映を経て、地域の多様な声を踏まえた計画として取りまとめたものです。



計画策定のプロセス

本計画の推進にあたっては、柏市農業振興審議会において、毎年度、事業の進捗状況等を検証・評価することにより、進行管理を行います。

また、行政、農業者・農業団体、JA及び市民等が連携し、各施策の具体化に向けた取組を進めるとともに、庁内関係部署との協議・調整及び連携を図り、着実に計画を遂行します。

柏市の農業について

本市の農業の概況

本市の総面積 11,474haのうち、農地面積は約2,550haで、市全体の約22%、およそ5分の1を占めています。市街化区域は5,484ha、市街化調整区域は6,006haであり、市街化区域内にも多くの農地が残る都市近郊農業地域です。

東京都心から30km圏に位置しながら、水田と畑がほぼ半々に分布し、地域特性に応じた多様な営農が展開されています。

本市の農業を取り巻く状況

① 農業従事者数と経営体数

本市では、2010(平成22)年から2020(令和2年)にかけて農家数・農業従事者数が大きく減少し、特に販売農家や中核世代の減少により、農業労働力の確保が深刻な課題となっています。

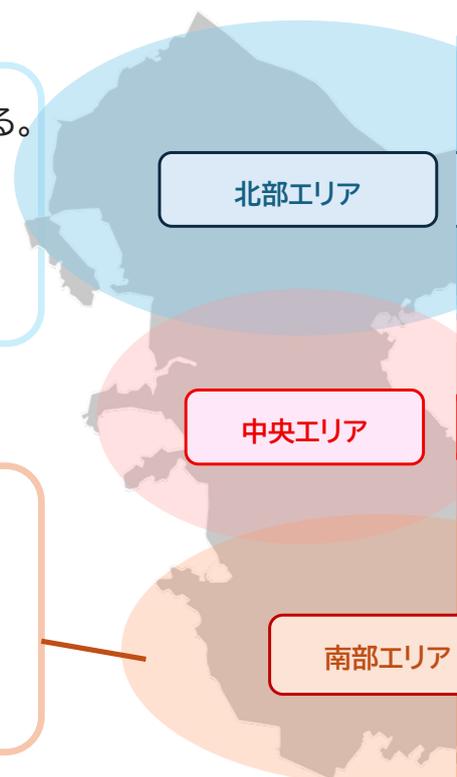
一方で法人化は進むものの、主業・準主業農家は減少し、副業的農家の割合が高まっています。



エリア別の農業の展開

- ◆ 利根川遊水地近辺に水田が広がり、大規模な稲作・畑作が展開する。
- ◆ 農地集積が進む一方、耕作放棄地が課題。
- ◆ 三大野菜(かぶ・ねぎ・ほうれんそう)の主要産地。
- ◆ 交流拠点(あけぼの山農業公園等)や公設市場が立地。

- ◆ 畑地が多く、野菜や果樹が中心となるエリア。
- ◆ 果樹では梨の生産・直売が盛ん。
- ◆ 野菜は多品目で栽培される。
- ◆ 長く住む住民と、開発された土地に入居する住民が共存し、地域住民の理解醸成が課題。



「柏市の三大野菜」であるかぶ・ねぎ・ほうれんそうを中心とした露地野菜の産地形成に加え、「柏市の三大フルーツ」である梨・いちご・ブルーベリーなどの果樹も盛んに生産されています。

市内各地に位置する観光農園、直売所や道の駅を通じて、市民との接点が多いことも特徴です。

② 農地利用の状況

本市では、農業従事者の減少により耕地面積は減少傾向にあるものの、減少幅は緩やかで、担い手への農地集積は一定程度進んでいます。

地域ごとに作付品目の特色を持つ多様な農業構造の中で、5ha以上の大規模経営体の増加による農地の集約化・大規模化も進展しています。

経営耕地面積(ha)



- ◆市街化区域に農地が点在し、少量多品目栽培が中心の都市農業エリア。
- ◆直売所「かしわで」等が立地し地元産農産物が身近。
- ◆豊四季では生産緑地が維持され、かぶの生産が盛ん。
- ◆農地保全には住民理解・協力が必要。

手賀沼周辺エリア

- ◆水田を中心に土地基盤整備が進むエリア。
- ◆畑作や果樹栽培も盛んで、多様な品目が生産され、観光農園も盛ん。
- ◆農地の集積・集約や担い手確保が今後の課題。
- ◆手賀沼アグリビジネスパーク構想の取組により、発信・交流拠点として注目され、市外からの来訪者も多く、交流人口が増加。

本市の農業の目指す姿と施策の展開

— 本市の農業の目指す姿 —

【～柏市都市農業振興計画の目指す姿～】

多様な農業がつづく柏 ～持続可能な都市農業の実現～

本市の農業が目指す将来像の達成に向け、現状と課題から各施策を展開させる際のキーワードを[農地]・[人]・[所得]として設定します。

各施策の目的は、キーワードのいずれかに該当するものであり、キーワードの役割は、施策の目的をわかりやすく表記するためのものとなります。

— 将来像を実現させる3つのキーワード —

将来像を実現させるキーワード

【農地】



農地
農地を維持し、耕作の継続につなげます。

【人】



人
農業の担い手確保につなげます。

【所得】



所得
農業所得の向上につなげます。

本市の農業は本市の重要な財産であり、市民全体の利益につながるものであることから、この多様な農業を将来にわたり継承していく必要があります。

本計画では、農業者と消費者をつなぐ取組を重視しながら、本市らしい持続可能な都市農業の推進を図ります。

施策の展開と指標

柱1

柏市農業の生産性の維持・向上 ～食料の安定供給と生産基盤の維持～

農地の集積・集約と規模に応じた作付け支援、担い手確保、付加価値向上等により、生産基盤の維持と農業経営の安定・強化を図り、生産性の維持・向上を目指します。

施策	指標名	現状 (R6)	目標値 (R8～R12)
1-1	農用地区域面積	1,694.41 ha	1,694.41 ha
	農地の貸借に関する権利を設定している面積	492ha	600ha
	生産性向上に寄与する機械・施設の導入件数(累計)	—	15件
1-2	認定農業者数	186人	206人
	新規就農者数(累計)	—	15人増
1-3	耕作放棄地が解消された面積(累計)	—	25ha解消
	地域での農地維持管理活動地区数	1地区	3地区
1-4	6次産業化に取り組んだ経営体数(累計)	—	10件
	新たな品目、ブランド化に取り組む出荷組合等を設立した件数	—	3件

柱2

市民理解と都市農業の多面的機能の発揮 ～市民みんなでささえる農業～

地産地消の推進や農業を活かした交流機会の創出、都市農業の多面的機能の発揮、環境に配慮した営農への支援により、市民全体で支える農業を目指します。

施策	指標名	現状 (R6)	目標値 (R8～R12)
2-1	三大野菜・三大フルーツの認知度	31.8%	50%
	柏市農産物を購入する市民の割合	59.1%	60%
2-2	直売所利用など農業と何らかの関わりがある市民の割合	53.1%	70%
2-3	市街地に農地があることについて肯定的に捉える市民の割合	51.3%	55%
2-4	ちばエコ農産物の認定件数	34件	45件





発行／柏市
〒277-8505 千葉県柏市柏5丁目10番1号
電話:04-7167-1111(代表)
編集／柏市 経済産業部 農政課